スポットライト

映画「ふるさと」上映会(3月4日)
コピスみよし（三芳町）

コピスみよしでは、「三芳町で良い映画を観る会」主催で映画「ふるさと」を上映します。上映作品にこめる熱い想いをお話していただきました。

（お話は谷口芳隆さん、佐久博美さん）

大好評だった第一弾「草の乱」

―「三芳町で良い映画を観る会」はどのようにして始まったのですか？

佐久　昨年二月に、埼玉で起こった秩父事件を元にして作られた「草の乱」という映画を上演したんです。そのときに、みんなの力で「草の乱」を成功させるために、実行委員会を立ち上げました。おかげさまで、「草の乱」は、九百人近くの方に来ていただきました。

監督の神山征二郎さんにもお越しいただき、実行委員会の皆さんと交流会を行ったり、上映会当日はご挨拶いただき、とても中身の濃い取り組みになったんです。それで、この後どうしよう？ということで、せっかくなので、近隣の映画館では上映されていないような、新旧にこだわらないで、みんなで選定しながら、良い映画を年に一回位やったらどうか、という話になったんです。

―神山監督は、どのような作品を作ってきた方なんですか？

佐久　皆さんよくご存知なのは、「ハチ公物語」や「郡上一揆」などです。古い作品でも、今の人たちにも共感できるような作品を手がけ、派手ではないんですが、映像がすごくきれいなんです。

現代に通じるテーマが光る「ふるさと」

―「ふるさと」はどういう物語ですか？

佐久　ダムにより離村を迫られる山村が舞台。その村で暮らしてきた老人、伝三が主人公です。痴呆がひどくなっていく伝三を取り巻く家族、それを悲しむ隣家の少年との交流を、消え行く故郷を背景に描いた作品です。

―今回、なぜこの映画を選んだのですか？

佐久　「草の乱」と同じく神山さんが監督で、二十三年前の作品なんですが、全く古さを感じさせないんです。テーマは、ダムの開発で、村がなくなっていくことと、老人の痴呆の問題など、いろんなことが入ってくるんですけど、老人の問題は、とても共感できることがありました。

谷口　あと、三芳町の特性というか、地域性というか、いろいろと市町村が合併していきますが、地元の方々が、自分たちの土地を大事にしていこうと、自分のふるさとに重ねて観てもらえれば、という意味合いも込めています。

―この映画に関連した写真展も開催するそうですね。

佐久　はい、映画の舞台となった村の十五年を撮り続けた、写真家、大西暢夫さんの写真展「僕の村の宝物」も開催します。

映画「ふるさと」のシーン

古き良き映画を観るシアターの役割

―最近、映画館も増えてきているんですけど、こういう古い映画を観られるシアターは地域にないですよね。その役割を、公共施設で担うような意識はありますか？

佐久　そうですね、意識しています。この上映会が定着していけば、これから先、いろんなアイデアが出て、ふくらんでいくのかなと思っています。

恒例となった演劇祭（2月）
キラリ☆ふじみ（富士見市）

演劇好きの人も、そうでない人も、一緒に演劇を楽しもう！芸術監督の平田オリザさんが贈る、演劇祭の魅力を語ってもらいました。（お話は荒田和久さん）

平田オリザさんと共に歩んできた演劇祭

―演劇祭はいつ始まったのですか？

荒田　オープン翌年の平成十五年から、毎年二月を、演劇祭にしよう、という試みで、やっているんですけども。そもそも、この芸術監督が、劇団青年団主宰の、平田オリザさんなんですけど、平田さんの「演劇漬けになる月を作りましょう」という提案から、始まりました。

―芸術監督というのは？

荒田　一言で言うと、館のプログラムの責任者です。その方の元で、キラリ☆ふじみはこうやっていきましょう、と、いうことを、プロの目で選んでいただくために、芸術監督を置いているんです。

バラエティ豊かな四劇団

―演劇祭について、なぜこの四つの劇団が選ばれたのですか？

荒田　バラエティ豊かな四劇団を選びました。こんにゃく座の「森は生きている」は、小さいお子さんから観られる作品です。もちろん、大人も楽しめる、日本語のオペラです。こまつ座の「紙屋町さくらホテル」は、比較的に、演劇に親しんでいない方でも、大衆的な作品になっておりますので、初めての方でも楽しめる作品ですね。また、青年団、平田さんの劇団なんですけど、「ソウル市民昭和望郷編」、新作です。芸術監督の新しい作品を、観ることができるんです。そして、ここで作る「耽餌（たぬび）」は、キラリ☆ふじみで作る芝居、と名が付いているぐらいですから、ここでしか観られない作品です。

地元出身者の作・演出

―「耽餌」は地元出身の方の作品ですね。

荒田　はい、たまたま、なんですけど、小・中学校が富士見市、という下西啓正さんが、作・演出ということで、公募で選ばれました。この作品は、たとえば、東京のどこかの劇団が買う、とか、他の劇団の上演にも堪えられるようなレベルを目指しているんですよ。

―この作品、公開げいこなど、市民に製作の過程を見せるそうですが。

荒田　「ここでこうやって作品を作っている」というのを市民の方に観ていただきたいです。

―演劇祭を続けてきて、市民の方の反応はいかがですか？

荒田　だんだんと観てくれる人が増えてきていると感じています。徐々に浸透してきていますね。

東京フィル演奏会(2月25日)
サンアゼリア（和光市）

和光市文化センター（通称「サンアゼリア」）で、東京フィルハーモニー交響楽団（以下東京フィル）の演奏会が行われます。実は、和光市と東京フィルは、提携関係にあると知っていました？

（お話は、塚田美穂さん）

ソリストは小松亮太（バンドネオン）

―今回の演奏会の特色はなんですか？

塚田　これまでの演奏会では、ソリストの方に、クラッシック関係のバイオリニストやピアニスト、声楽家などを起用することが多かったのですが、今回はバンドネオンという、ちょっと異色の取り合わせなんです。

―バンドネオンとは楽器のことですか？

塚田　はい、バンドネオン（ｂａｎｄｏｎｅｏｎ）は、主にタンゴで用いられる楽器で、アコーディオンに形が似ていますが、鍵盤はピアノのような形ではなく、ボタン型で、これが蛇腹を挟んで両側についています。奏者としてアストル・ピアソラ、諦鵬などが有名です。バンドネオンということになると、曲目がかなり限定されるのですが、今回はその中から奏者としても有名であるピアソラ作曲のバンドネオン協奏曲が演奏される予定です。

―東京フィルとは、どんな楽団ですか？

塚田　日本で一番古い、伝統を持つオーケストラです。新国立劇場のレギュラーオーケストラとして、オペラに関する活動が多かったりします。

和光市と東京フィルの関係

―サンアゼリアとは、提携関係にあるそうですが、提携活動について教えてください。

塚田　年二回の演奏会を行い、公開リハーサルも年に二回、必ず行っています。そのほかに、地元の中学生・一般の方々を相手に、演奏指導を行うクリニックを行っています。演奏会等だけではなく、それ以外の、細やかな部分にも力を入れているような形ですね。

―提携はいつから行われているんですか？

塚田　平成六年からです。東京フィルの前身である、新星日本交響楽団のときから、相互協力という形でやらせていただき、その後、新星と東京フィルが合併して、今の形になっています。

音楽家を目指す市民も

―市民の方の反応はどうですか？

塚田　公開リハーサルでは、普段は見られないオーケストラや指揮者の様子を見られると好評をいただいています。クリニックを受けた方の中には、実際に音楽家を目指して現在活動中の方も出て来ています。

沿線催事情報

三芳町文化会館　コピスみよし

三芳町藤久保1100-1、みずほ台、鶴瀬駅よりライフバス、☎049-259-3211

◎「中井貴恵＆遠ＴＯＮＥ音ジョイント・コンサート　はるにれの木の下で」コピスみよし５周年記念、音楽と読み語りによるコンサート　☆1月14日(日)14:30開演、☆出演：中井貴恵、遠ＴＯＮＥ音

◎「ＶＩＶＡ！タカラヅカ―よみがえる青春」金井信プロデュース　コピスみよし2007ニューイヤーコンサート　☆1月21日(日)15:30開演、☆出演：笹潤子、初風諄、水はやみ、安奈淳他。

◎「『ふるさと』上映会」神山征二郎監督作品、三芳町で良い映画を観る会　☆3月4日(日)10：00、14：00　☆出演：加藤嘉、長門裕之、樫山文枝他

◎「錦織健リサイタル」コピスみよし５周年記念　☆3月25日(日)15：30　☆出演：錦織健(テノール)、金井信(ピアノ)

和光市民文化センターサンアゼリア

和光市広沢1-5、和光市駅よりバス、　☎048-468-7771

◎「ベルリン・フィル八重奏団演奏会」、共演上原彩子　☆1月11日(木)　19:00開演

◎「ニューイアー・オペラガラコンサート」珠玉の名アリア集　☆1月13日(土)15:00開演、☆ご案内役：郡愛子、佐藤ひさら、経種廉彦他

◎「桂三枝の笑ウインドツアー2007」爆笑創作落語独演会　☆1月19日(金)19：00開演

◎「オペラ彩第23回定期公演『トゥーランドット』全3幕(字幕付原語上演)」　☆1月27日(土)18：00開演、1月28日(日)14：00開演

◎「ピーコのおしゃれ歌劇場」　☆2月24日(土)15：00開演、☆出演：ピーコ(歌・ナビゲーター)、小泉源兵衛(ピアノ)、桑山哲也(アコーディオン)

◎「東京フィルハーモニー交響楽団演奏会」　☆2月25日(日)15：00開演、☆出演：金聖響(指揮)、小松亮太(バンドネオン)、東京フィルハーモニー交響楽団

◎公共ホールネットワーク事業2007「～女神たちが贈る素敵なコンサート～」　☆2月26日(月)19：00開☆2月26日(月)19：00開演、☆出演：加藤知子、堀米ゆず子、戸田弥生、川田知子(ヴァイオリン)、梅村祐子(ピアノ)

◎「奥村愛リサイタルwithストリングス」☆3月2日(金)19：00開演、☆出演：奥村愛ほか

◎「水谷川優子＆水永牧子デュオ・コンサート」☆3月8日(木)19：00開演、☆出演：水谷川優子(チェロ)、水永牧子(チェンバロ)

富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

富士見市鶴馬1803-1、みずほ台、鶴瀬、ふじみ野駅より市内循環バス、☎049-268-7788

＜キラリ☆ふじみ演劇祭＞

◎『耽餌』（たぬび）キラリ☆ふじみで創る芝居　☆2月9日（金）19:30、10日（土）14:00、18:00、11日（日）14:00、12日（月）16:00　☆脚本・演出：下西啓正（劇団乞局局長）

◎「青年団第52回公演　『ソウル市民　昭和望郷編』」　☆2月17日（土）19:00開演、18日（日）14:00開演　☆作・演出：平田オリザ

◎「こまつ座　『紙屋町さくらホテル』」☆3月4日（日）14:00開演　☆作：井上ひさし、演出：鵜山仁

◎「オペラ『森は生きている』」　☆3月21日（水）14:00開演　☆出演：オペラシアターこんにゃく座

◎「都響メンバーによるトークコンサート」　☆2月12日（月）14:00開演　☆出演：東京都交響楽団メンバー、地域住民有志

◎「音楽のおくりもの」　☆3月10日（土）①わいわいコンサート11:00開演　②アフタヌーンコンサート　14:00開演　☆出演：アンサンブル・ディヴェルターズ

板橋区立美術館

板橋区赤塚5－34－27、成増駅よりバス、☎03－3979－3251

◎「池袋モンパルナスの作家たち」　☆3月17日（土）～7月8日（日）9:30～17:00

板橋区立郷土資料館

板橋区赤塚5－35－25、成増駅よりバス、☎03－5998－0081

◎「江戸の砲術―砲術書から見たその歴史―」　☆1月27日（土）～3月25日（日）9:30～17:00

朝霞市博物館

朝霞市岡2－7－22、朝霞台駅より市内循環バス、☎048－469－2285

◎丸沼展（仮称）　平成13年開催の「モネとドラクロワ」の作品を再び公開　☆2月3日（土）～3月4日（日）9:00～17:00　☆共催：丸沼芸術の森

川越市立美術館

川越市郭町2－30－1、川越駅よりバス、☎049－228－8080

◎「ふくやま美術館コレクションへの旅　美をもとめて―岸田劉生から横尾忠則まで―」☆1月27日(土)～3月25日(日)9:00～17:00

埼玉伝統工芸会館

比企郡小川町大字小川1220、小川町駅よりバス、☎0493-72-1220

◎「日本の伝統『瓦』展～埼玉の瓦・鬼瓦の魅力～」☆1月4日(木)～1月28日(日)9:30～17:00

創刊のご挨拶

東上線沿線地域の地域情報紙として、平成十九年四月に創刊いたします。行政、産業、街づくり、文化、お店などの分野を対象とし、主としてインタビュー形式をとり、そこで活動される人たちの姿、熱い思いを伝えていきます。このささやかな媒体を通じて、皆様の地域への理解が深まり、さらなる発展につながればと願っております。

当面、月刊で八ページの新聞として発行いたします。本紙は有料紙ですので、購読料をご負担いただかなければならず、郵送による定期購読、書店などでお求め願います。ご支援をいただければ幸いです。

東上沿線新聞
編集・発行人　金子雄一

本紙スタッフの募集

東上沿線新聞では、創刊にあたり、新聞制作に協力いただけるスタッフを募集します。

◎記者　沿線地域で取材し、記事を執筆していただける方。できれば沿線にお住まいで、地域動向に関心のある方。空き時間のお仕事でも可能です。

◎エリアパートナー
各市町村で、情報の収集・執筆、読者の開拓などを担当していただける方。

問い合わせは、電話０４８・２４２・３８７７、メール yfd51327@nifty.com までお願いします。